

**関東湾岸
船送り**

今週予定は7万1900トン

**輸出船の出航が集中
積載予定は5万5000トン**

(東京) 本紙調べによる今週の関東からの鉄スクラップ(雑品やステンレススクラップを含まない域外向けバルク積み市中玉)船送り予定量は、29隻7万1900トン(輸出12隻5万1300トン、内航17隻2万600トン)となっている。22日に荷役を終了する関東鉄源の1万5000トンなど、先週から今週にかけて荷役が続く輸出船が5隻あり、これらが今週予定を押し上げている。また、内航も2週ぶりに2万トン台を回復する予定だ。実績数量が7万トンを上回れば、3月第5週(速報9万2000トン)以来3週ぶりとなる。

一方で、積載ベースの今週予定量は5万5000トン(うち輸出3万4400トン)にとどまっている。週後半の輸出荷役予定が減少している。

来週は川崎港を中心に輸出配船予定が複数出ている。

| 出航ベース(単位:トン) | 神奈川方面 | 川崎港 | 東京港13号地 | 千葉・船橋・他 | 合計 |
|--------------|---------|----------|----------|-----------|-----------|
| 4月 第3週 | 1隻1,200 | 8隻21,400 | 1隻6,000 | 17隻31,200 | 27隻59,800 |
| 輸出 | 0 | 4隻17,000 | 1隻6,000 | 7隻19,000 | 12隻42,000 |
| 内航 | 1隻1,200 | 4隻4,400 | 0 | 10隻12,200 | 15隻17,800 |
| 4月 第4週予定 | 3隻4,400 | 8隻15,700 | 3隻22,200 | 15隻29,600 | 29隻71,900 |
| 輸出 | 1隻2,000 | 2隻8,300 | 2隻21,000 | 7隻20,000 | 12隻51,300 |
| 内航 | 2隻2,400 | 6隻7,400 | 1隻1,200 | 8隻9,600 | 17隻20,600 |

※雑品を含まない市中玉バルク船出航ベース 日刊市況通信社調べ

| 積載量ベース(単位:トン) | 神奈川 | 川崎 | 東京13号地 | 千葉・船橋・他 | 合計 |
|---------------|-------|--------|--------|---------|--------|
| 4月 第3週 | 1,200 | 26,600 | 10,900 | 32,200 | 70,900 |
| 輸出 | 0 | 22,200 | 10,900 | 20,000 | 53,100 |
| 内航 | 1,200 | 4,400 | 0 | 12,200 | 17,800 |
| 4月 第4週予定 | 4,400 | 10,500 | 12,500 | 27,600 | 55,000 |
| 輸出 | 2,000 | 3,100 | 11,300 | 18,000 | 34,400 |
| 内航 | 2,400 | 7,400 | 1,200 | 9,600 | 20,600 |

※日刊市況通信社調べ

大型連休を前に約残消化が進む見通しだ。

関東浜値 スポット対応続くも輸出安が下げ圧力に

(東京) 週明けの関東湾岸鉄スクラップ市況は、大勢様子見で推移している。安値筋への入荷は薄く、船積み時限定のスポット対応も続いているが、輸出市場で新規交渉が先行下落しているため、軟調感が残る展開だ。

17日時点の1トンあたりの関東浜値は、H2が4万8000~9000円中心(高値4万9500円見当)、HSが5万2500~3500円中心(高値5万4000円見当)、新断バラが5万2000~3000円中心となっている。

目下、消化が進む約残は「既契約価格が現在の浜値を上回っているものも多い」(輸出シッパー)という。しかし、輸出市場で新規交渉価格が先行下落しており、先週後半の韓国向けH2交渉値はFOB4万7500円を下回った。この水準に見合うためにはH2集荷価格を4万6000円台まで下げる必要がある。シッパーの価格設定は配船予定の有無によって大きく異なるが、成約環境の悪化に伴い浜値の下押し圧力はいぜん強い。

NEWSCON、ヤード機能強化で業界の物流対応に貢献へ

2024年問題などの物流課題への対応が求められる中で、エンビプロ・ホールディングスで資源貿易事業を展開するNEWSCON(本社=東京都中央区、妙見英樹社長)は、スクラップ事業の物流対応として、全国に展開する自社ヤードの機能を強化する方針だ。受入れ量を増やして、地元サプライヤーの輸送距離を短縮することで「お客さまの物流コスト軽減に貢献していく」(妙見社長)という。

運賃高騰やドライバー不足などは、国内のあらゆる産業が直面する構造的な課題だ。鉄スクラップ事業においては、需要地から遠く離れた地域の事業者へ輸送コストの負担増が重くのしかかる懸念がある。

NEWSCONでは現在、全国8カ所(函館港、直江津港、船橋港、川崎港、清水港、衣浦港、名古屋港、尼崎港)で鉄スクラップヤードを展開している。新たなヤードの開設も構想しており、スクラップの受け皿を拡大させていく。

受入れの拡大とともに、販売の強化も図る。「ヤード管理を自社で行っていることもあり、スクラップの

品質対応では強みがある」(妙見社長)という。「受け」と「出し」の両面を強化しながら、鉄スクラップで年間100万トンの取り扱いを目指す方針だ。

■本社オフィス、「人びとが集う場所」に

NEWSCONは昨年12月、本社オフィスを東京・京橋に移転した。室内は壁面を取り払ったシームレス仕様で、営業メンバーの作業スペースは決まった席を持たないフリーアドレスとした。室内の所どころに緑をあしらひ、入口では優雅に泳ぐメダカ達が来訪者を出迎える。解放感を高めるために椅子のサイズや色にもこだわっている。



フリーアドレスエリア：気分によって席を自由に変えることができる

オフィスの入口には優雅に泳ぐメダカ達が来訪者を出迎える。解放感を高めるために椅子のサイズや色にもこだわっている。

オフィスは東京メトロ銀座線・京橋駅から徒歩1分、東京駅からも徒歩圏内とアクセスが良い。妙見社長は「お客さまにも気軽に立ち寄って頂けるような、人びとが集う居心地の良い場所にしたい」としている。